

開発建設部

「石西礁湖自然再生協議会」の取組

Point

国際的にも重要なサンゴ礁生態系である石西礁湖の自然環境を再生するためにはどうすれば良いかを多様な主体が集まりこれまで16回議論や意見の交換を行っています。

「自然再生協議会」とは

我が国を代表するサンゴ礁生態系である石西礁湖は、漁業や観光など地域経済を支える存在であり、多くの人が活動する場となっています。

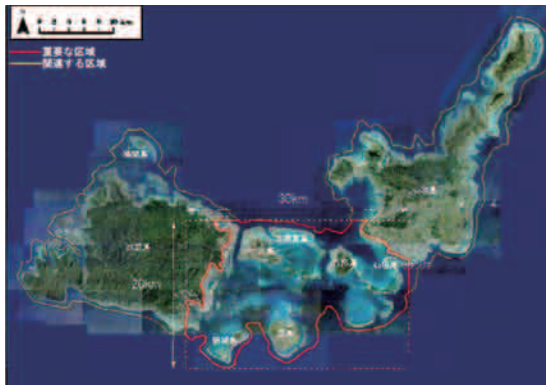
その石西礁湖が、赤土流出などの陸域からの環境負荷、高水温等による白化、オニヒトデの大量発生等により、攪乱を受け、大きく衰退していることから、「かつてのすばらしい石西礁湖のサンゴ礁を取り戻したい」、「もっと美しい海を見てみたい」、「サンゴと共に生きる地域をつくりたい」という熱い思いを持った、地元住民、市民団体、漁業や観光関係の団体、研究者、行政機関など多様な主体が集まり、「石西礁湖自然再生協議会」が平成18年2月に発足しました。協議会では、まず、石西礁湖の自然再生に向け、どのような目標に向かって進むべきか、どのような活動をすべきか、それぞれの構成員ができることは何か、などについて議論を行い、平成19年9月に「石西礁湖自然再生全体構想」をまとめました。現在は、全体構想に基づき、目標実

現に向けた活動の実施について意見交換を行っています。

(平成24年12月現在、個人36、団体・法人38、地方公共団体27、国の機関7の計108の個人・団体等から構成されています。)

「石西礁湖」とは

石垣島と西表島の間に広がる広大なサンゴ礁海域は、石垣島の「石」と西表



石西礁湖

島の「西」とって石西礁湖と呼ばれ、我が国を代表するサンゴ礁生態系を有しています。

「生活・利用に関する検討部会」の取組

地域住民が生活を営む上で必要不可欠となる「漁業」「観光」「海上交通」等について、石西礁湖の自然再生と両立を図りつつ、永続的に活用するためのあり方・ルールについて検討し、結果について自然再生協議会に報告しています。

直近の取組内容

海域利用ルール検討の取りまとめとして、①水産資源の確保、②ダイビング利用、③観光について短期的、中期的な方向性を取りまとめたところで、海域利用ルールを具現化していくことを念頭に、まずは石西礁湖の保全や利用に関するルールや取組を、平面的に把握するための「石西礁湖の海域利用・保全ルールマップ」(以下、石西礁湖ルールマップ)づくりを行うことを提案しています。

「石西礁湖ルールマップ」

記載項目・イメージ

石西礁湖ルールマップに記載する項目は、部会メンバーでマップに記載すべき情報を提案したり、情報を出し合うなど、ディスカッションにより整理しています。

「石西礁湖ルールマップ」記載項目の例

- ・ 西表石垣国立公園における海中公園地区
- ・ 禁漁区(場所、期間、魚種・サイズの情報)
- ・ オニヒトデ駆除重点実施区域
- ・ 追い越し自粛区間 等



生活・利用に関する検討部会の様子